
むか～しむかし

蒼風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

むかしむかし

【Nコード】

N7765L

【作者名】

蒼風

【あらすじ】

むかしむかし、あるところにおじいさんとおばあさんがいました。

その物語は、そんなありふれた出だしで始まります。だけど、物語にありふれたことなんてないのです。そこには、どんなに平凡でも、たくさんの想いが詰まっているのです。

むかしむかし・・・その物語は、そんなありふれた出だしから始

まる、女の子を守りたい男の子と、そんな男の子が大好きな女の子の、大切な大切な物語。

異聞昔話、開幕です。

それは始まりの物語

むかしむかし、あるところにおじいさんとおばあさんがいました。

おじいさんは山へ芝刈りに、おばあさんは川へ洗濯に行きました。

おばあさんが川で命の洗濯をしていると、大きな桃（直径3メートル前後）がどんぶらっこっこすっこいと流れてきました。

おばあさんはびっくり仰天。

その桃をとりあえず拾ってみようと思いましたが、いかんせん、その川はとても大きな川。

その中央部を流れていたので、岸からは10メートルは離れています。

おばあさんは考えました。

そして、頭の上に電球が出るかのような勢いでひらめきました。

年の割にはだいぶ若いその顔に浮かぶ表情。

凜とした、いかにも戦いに臨むかのようなその顔は、とても美しかったり、美しかったり。（大切なことなので二回言いました）

そして、おばあさんは、手に持ったかごをえいやささと投げ飛ばし、見事にその桃にかぶせると、背負うためにくくりつけられていた紐を上手に使って騎士まで・・・いやさ、岸まで持ち帰ってきたわけ

なのです。

そして、おばあさんは。その桃を背負うと家に向かって軽やかに足を進め始めるのでした。

一方そのころ。

山へ芝刈りに向かったおじいさんは、順調に芝を刈りまわりました。

たまに襲い来る熊なんかも狩ったりして、まさに絶好調。

まだまだ若いもんには負けんわい、なんていいながら鼻歌交じりに草を刈ります。

ついでにたけのこも食べたいなあ、なんていいながら竹やぶにちかづくおじいさん。

すると、そこには黄金色にぴかぴか輝く一本の竹がありました。

中でも一番光が強い節があり、その光は強くも優しく、とても神々しかったのです。

なんか、とてもいいものを見て幸せな気分のおじいさん。

だけど、その幸せは長くは続きませんでした。

しばらくそうしていると、おじいさんの周りには異変が起こってしまっているのであります。

鬱蒼と茂る竹やぶの影になっている部分。

そこから、まるで生き物のように影が集まってきたのです。

影は集まり、より強い影・・・闇になります。

集う、集う、集う闇。

その闇はきらきらと輝いている竹を包み込むように、光そのものを滅するかのように手を伸ばしました。

だけど、そうはなりませんでした。

そこに、おじいさんがいたからです。

おじいさんは思いました。

こんなに綺麗で優しいものが、なくなってしまったらいかんだろうと。

おばあさんにも見せてやりたいんだから、なんて思いながら。

おじいさんはおばあさんに、『らぶ』だったのですから。

だから、おじいさんは燃えました。

燃えて燃えて燃えて、おじいさんは闇を滅しようとしています。

無造作に突き出された手。

その手の中で、じじいのじじいによるじじいのためのじじい・・・

つまり、己という存在そのものが凝縮されて凝縮されて凝縮されて、そして、弾けました。

それは、まるで爆発。

「じじい・ダイナマイト!!!」

世界を歪ませるほどのじじい・・・じゃなくて、おじいさんの存在は、裂ぱくの気合いと共に闇に襲い掛かりました。

それは、闇という存在そのものを侵食していきます。

「じ・じいえんど!!!」

すさまじい速さで駆け抜けたおじいさんの背後には、すでに闇は存在していませんでした。

優しい笑顔を浮かべながら、光り輝く竹に近づくおじいさん。

自然と開かれたその竹の節の中では、小さなかわいらしい赤ちゃんが笑顔を浮かべたまま眠りについていました。

おじいさんは、おばあさんの待つ家へと向かいます。

大切そうに、赤ちゃんを抱きしめながら。

そして、生まれます（前書き）

なんか、だらだらな物語になってますが、もうちょっとがんばりますんでお付き合いいただけたら嬉しいです

そして、生まれます

おじいさんが山から帰ると、おばあさんが出迎えてくれました。

熱烈な歓迎。

熱い抱擁。

あ、気持ち悪いとか言っちゃだめです。

おじいさん、おばあさんって便宜上言っではいるものの、実年齢が上っただけで、二人とも若者の姿なのです。

穏やかな雰囲気だけど、怒ると怖い男性と、意外とツンデレ女性の組み合わせ。

うむ、萌える(??)

まあ、そんな感じで熱烈抱擁をしているときに、おばあさんはおじいさんの片手がふさがっているのに気づきました。

小脇に抱えられた、かわいらしい玉のような赤ん坊。

それを見た瞬間、おばあさんはとまりました。

まるで、彫像のようにピクリともしない体。

不思議に思っておじいさんが顔を覗き込むんだときでした。

そこに鬼がいたのです。

自分の命が消える音を聞いた・・・後におじいさんは語ったそうです。

揺らめくオーラ。

灼熱の熱風。

物理的な質量さえも伴うその怒りに比例し、おじいさんの顔はみるみるうちに青ざめていきました。

某ゲームの、「かゆ・・・うま・・・」ってつぶやく人たちと同じくらいの青白さ。

死の直前です。

おじいさんはジャンピング土下座を繰り出しました。

世界土下座選手権王座に輝けるくらいのレベルです。

でも、おばあさんのオーラは留まることを知りません。

「おじいさん・・・???」

とても美しい笑顔。

でも、いつもは心がときめくその表情を見ても、おじいさんはぜんぜん嬉しくはありませんでした。

なぜなら、恐怖で心臓が止まりそうだったから。

追い討ちをかけるように、おばあさんの声が優しく響きます。

「その子は、だあれ??」

柔らかい口調。

でも、その温度は凍てついています。

ブリザードなんて目じゃないです。

温暖化なんて、一瞬で解決しそうな、そんな怒り。

死の恐怖にあえぐおじいさんは、震える声をなんとかのどの奥から搾り出すと、事情を説明しました。

光る竹、襲い掛かる闇、それから光を守ったこと・・・その話を聞くうちに、おばあさんの顔は冷静になっていきます。

「おじいさん」

落ち着いた声。その声にはもう怒りは含まれてはいませんでした。

真剣な、色。

その声に反応し、おじいさんははじかれたように顔を上げます。

「・・・うむ」

二人に会話はありませんでした。

でも、言葉なんて、二人の歩いてきた時間には不要なものなのです。

その思いは、その心は、いつも一緒だったのですから。

凜とした表情のおばあさんを見て、「やっぱりきれいやわ〜」って心の中でほくほくしていたおじいさんは、視界の隅にあるものを見つけてました。

ってか、視界の隅どころか部屋の真ん中にどっかりと置かれている存在。

大きな桃です。

とてもおいしそうなでっかい桃です。

おじいさんは言います。

「HEY, まいすうい〜とはに〜、この桃はなんなのだYO?」

よくわからない言語を話すおじいさんを華麗にスルーすると、おばあさんは言いました。

「実は・・・かくかくしかじか」

おじいさんは驚きます。

おばあさんが、ほんとにかくかくしかじかと言わなかったことに。

でも、なんとなくわかりました。

愛は偉大なのです。

で、さっそく食べることに。

とりあえず、切れ味鋭い包丁の切っ先を桃に向けると、桃が動きま
した。

ピョンピョンはねながら、おじいさんから遠ざかります。

でも、おじいさんはただのおじいさんではなかったのです。

ネオ・じじい・ユニバースなのです。

縮地という移動方法で一氣に近づくと、鞘が無い状態から抜刀術を
繰り出します。

某漫画で勉強したやりかた。

しかし、意外とうまくいったのです。

が、ここで問題が。

圧倒的なくらい、刃が短い。

桃の中まで貫通なんてする分けないのです。

物理法則に逆らえず、周りの部分だけ切っていく刃。

そして、すごい勢いで、桃が真っ二つに割れ・・・中から玉のよう
な元気な男の子が。

桃から生まれた桃太郎。

この物語の主人公が、ようやく誕生した瞬間でありました。めでた
しめでたし・・・まだ終わらないけども（・|・。）（・|・。）
（・|・。）（・|・。） ウンウン

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7765/>

むか～しむかし

2010年10月9日03時02分発行